第２号様式（第５条）【公開】

提　案　書

※　記入上の注意

①　第２号様式はページを増やさず、必ず２ページ以内でまとめてください。

②　第２号様式は広く情報公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

③　資料をＡ４判２ページまで添付することができます。その際、資料の両側に15㎜以上余白を確保してください。

④　提案書、添付書類は、選考委員会委員には白黒コピーで配付します。

提案名 （２５字以内）	探してみようバリアフリー（車椅子編） in「横浜みなとみらい21」
グループ名 （２５字以内）	ＮＰＯスクエア連絡会
グループの現在の主な地域社会貢献活動の内容及び最近５年以内の実績	ＮＰＯスクエア（ワールドポーターズ6階事務所スペース）には15団体（個人を含む）が入居しており、個々に地域社会貢献活動を行っている。ＮＰＯスクエア連絡会として2002年より毎年、ワールドポーターズのバリアフリーフェアに参画、バリアフリーに関するフォーラムを開催している。 昨年（2008年）はワールドポーターズのバリアフリーマップ（かながわ県民活動サポートセンター助成）を作成、ワールドポーターズ館内で来訪客に配布したり、毎月行われている車椅子研修や横浜市内の高校（福祉クラス）などで利用している。
助成金を受けて行う活動の目的 （「地域における良好な環境や地域の価値の維持・向上」にどう資するか具体的に記入してください。）	早い段階から「横浜みなとみらい21」ではバリアフリーのガイドラインや参考となる事例集は存在すると思うが、日々進化している「横浜みなとみらい21」では常に指針の見直しが必要不可欠であると考える。そこで改めて車椅子ユーザーによる「横浜みなとみらい21」のバリアフリーの優位点とトラップ（落とし穴）を探る。 ここで得た情報を元にテナントや企業と車椅子ユーザーの話し合いを行い、新しいサービスやアイディアへとつなげる。 初めて「横浜みなとみらい21」を訪れる観光客への情報提供だけでなく、再度訪れる居心地のいい場所としてリピーター増加への足がかりになるなど、観光振興にも役立つものとしたい。今回車椅子ユーザーに調査をしぼるのは、彼らの快適さは、足腰の弱い高齢者や乳母車を使う家族連れも網羅すると考えるからである。
助成金を受けて行う活動の内容	「横浜みなとみらい21」を車椅子ユーザーが当事者の目で検証し、バリアフリーに関してハード面だけでなく、ソフト面での情報を得る。これらの情報を元にバリアフリーに関心のあるテナントや企業の有志と車椅子ユーザーの情報交換を行う。 検証や情報交換の内容を報告書にまとめ、今後のバリアフリーミニガイド作成や、車椅子情報誌「行こうよ。」への素材提供とする。

今回の提案の特徴その他特にＰＲしたい点	・「横浜みなとみらい21」のバリアフリーの見直し検証ができる ・「横浜みなとみらい21」テナント向けマニュアルとしてガイドマップと手引き作成の資料となり、車椅子用研修などの学習素材が提供できる ・「横浜みなとみらい21」のビルオーナーやテナントのバリアフリー意識（ソフト、ハード両面）の把握と情報共有が図られる ・「横浜みなとみらい21」を訪れる車椅子（高齢者を含む）や乳母車（家族連れ）が増える ・CSRへの対応策のひとつとなる バリアフリーというとハード整備に目が行きがちであるが、どうしたら来訪者が気持ちよく目的を達せられるか、ソフトでの対応が重要である。 障害者トイレが設置基準にいくら合格していたとしても、同行する家族や友人が外で長い間立ったまま待たされるのでは居心地悪い。 などなどバリアフリー意識は多様であるがゆえに、車椅子ユーザーと直接の意見交換は重要である。彼らは特別視されたいわけではなく、ハードでの多少の不便もソフトでの臨機応変の対応によって、違和感を感じずに気持ちよく過ごせるものと考える。

● 活動計画

助成金を受けて行う活動の内容を月ごとに記入してください。すでに行った活動がある場合は、そちらも記入してください。

１０月	「行こうよ。」編集者と打ち合わせ
１１月	「横浜みなとみらい21」を車椅子で探索活動（３回程度） （探索ルートはモデルとして「桜木町駅～ランドマークタワー～クイーンズスクエア」を想定）
１２月	障害者（車椅子ユーザー）と健常者との情報交換会（２回程度） 探索活動によって得た情報を元に、車椅子ユーザーと健常者（バリアフリー推進に関心をもつ市民グループや事業者、観光プロモーターなど）が情報交換・検証を行う。
１月	横浜みなとみらい21地区のテナント・企業の有志と車椅子ユーザーの意見交換会（１回） 探索活動や情報交換会の内容を元に、テナント・企業関係者と車椅子ユーザーによる意見交換を行う。
２月	報告書作成
３月	「行こうよ。」編集者と「横浜みなとみらい21」に提案

バリアフリーフェア2008

NPOスクエア　namco　横浜ワールドポーターズ

at ワールドポーターズ

9/13(土) 14(日)

健康快適生活展

9/13(土)・14(日)
10:30～19:00(最終日は17:00まで)
6Fイベントホール

車イスで遊ぼう！
「バーンゴルフ」＆ナムコのゲーム機
デイケア見学　心の探検講座
自閉症児・者アートギャラリー
盲導犬デモンストレーション　ＮＰＯ活動パネル展示
作業所作品展示販売　ＵＤグッズ展示販売
ワールドポーターズバリアフリーツアー
おいしいコーヒーとクッキーもあるよ

ユニバーサル・デザインフォーラム

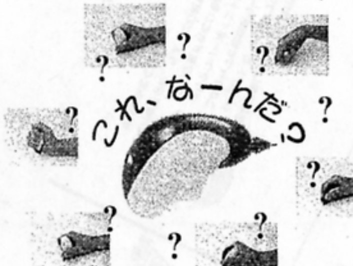
9/13 (土)
14:00～16:00
6Fイベントホール

わたしが使う　あなたも使う　たのしく使う

大きい人も、小さい人も。

目で見る人も、指で触る人も
耳で聞く人も、手で話す人も…

自分ひとりで使う人も、
誰かと一緒に使う人も…



基調講演　中川 聰 さん

1953年生まれ。千葉大学大学院美術研究科終了
プロダクト・デザイナー、環境・福祉デザイナー、デザイン・コンサルタント
㈱トライポッド・デザイン代表取締役
㈱トライポッド・プロダクツ代表取締役
Tripod Design New York Inc.　代表取締役
東京大学大学院工学系研究科産業機械工学専攻
デザインイノベーション社会連携講座特任教授

東京ニューヨーク、アジアを中心に、デザインコンサルタントとして活躍、独自のユーザー解析理論を基にしたデザインプロセスを開発し、国内外の企業と「ひとりひとりの使い手を尊重した」数多くの製品企画やデザイン開発に携わる。

お問い合わせ　045-212-5835（アリスセンター）　FAX 045-651-3116（横浜市障害者自立支援センター）
ホームページ http://www.nposq.jp/ E-メール bff@nposq.jp

主　催：バリアフリーフェア2008実行委員会（NPOスクエア、ナミニデイサービスセンターかいかや、横浜バーンゴルフ場、エネスペース、リビングライフケア）＆横浜インポートマート
参加団体：地域作業所ひぐれっと、ゆいまーる、福祉工房あいち、地域作業所あい、紡（社福）第2いこいの家、陶（社福）、かるがもの家、「手話&ステップ」の会、中原苑、アーダント・トライ

このフォーラムは平成20年度かながわ県民サポートセンターネットワークづくり支援事業です。

バーンゴルフ 特別ご優待券

バリアフリーフェア2009

at ワールドポーターズ

9/12(土) 13(日)

横濱開港150周年　横浜ワールドポーターズ

健康快適生活展

9/12(土)・13(日)
10:30～19:00(日曜17:00まで)
6Fイベントホール

きげんよく坐れてますか？

THE ザ・ざ 坐

ユニバーサル・デザインフォーラム

9/13(日)12:30～14:30　イベントホールA

～ 知っていますか？シーティング ～

いすからずり落ちてませんか？　腰が痛くなったりしませんか？
疲れるから、身体を起こすのが大変だからといって坐るのをあきらめていませんか？
自分に合った坐り方を探すこと、それが「シーティング」です。
どう坐るかであなたの暮らしがで変わるかもしれません。

基調講演　光野有次さん（パンテーラ・ジャパン株式会社代表取締役）

わたしたちにとって「坐る」とはどういうことか

1949年 佐世保市生まれ。金沢美術工芸大学卒業
仲間と「でく工房」を練馬区に設立し、障害者のための用具作りを始める。
「ハンディを持つ人の食器・椅子から建物・街づくりまで」を仕事の領域として、「無限工房」を諫早市に開設（現在:取締役会長）。
長崎大学 工学部 非常勤講師　東京衛生学園専門学校 非常勤講師　他
■受賞　ブルーノ・マットソン賞（ブルーノ・マットソン財団／スウェーデン1985年）、朝日社会福祉賞（朝日新聞社1997年）、国井喜太郎産業工芸賞（工芸財団2000年）他。
■著書　「みんなでつくるバリアフリー」（岩波ジュニア新書）「バリアフリーをつくる」（岩波新書）「生きるための道具づくり」（晶文社）他

いす？　ざぶとん？　たたみ？　快適に・楽しく坐るためのアイテムから
坐ってすてきなファッションやグッズのあれこれまで

おいしいコーヒーとクッキーもあるよ！

- 車イスで遊ぼう！「ミニゴルフ」
- デイケア見学
- ハートランドの心の探検講座
- フューテックの脳波測定&脳トレ
- 低炭素社会の実現と生物多様性の保全をめざして！
- 自閉症児・者作品展 やまびこギャラリー
- 盲導犬・介助犬デモンストレーション
- 障害者自立カウンセリング
- チェアウォーカー用グッズ展示販売
- 様々な身体に合わせる衣服デザインやリフォームの展示・作り方相談

福祉・介護の無料相談コーナー

～日頃、なかなか聞けない素朴な疑問を、
プロが解決いたします～

介護・福祉業界に興味がある方は、お気軽にどうぞ！

相談例：「ホームヘルパー2級の受講料が半額助成されるって、本当…？」など。

※巷で、話題の「認知症サポーター研修（無料）」ビデオを会場内で上映中

《身体の違いや、年齢や、国籍や、性別の違いの壁（バリア）を取り払って、みんな快適に楽しもう！》

お問い合わせ:045-212-5835（アリスセンター）　ホームページ http://www.nposq.jp/　E-メール bff@nposq.jp
参加団体：パンテーラ・ジャパン（株）／アソシエCHAKO／地域作業所ひぐれっと／木楽舎／（財）日本盲導犬協会／SCHWANZ／フューテックエレクトロニクス（株）／福祉工房あいち／地域作業所あい／陶（社福）／「手話&ステップ」の会／アーダント・トライ／タッドライン（有）／マーキュリー（NPO）／匠21（NPO）／マチトク

■ 後援:横浜市健康福祉局／横浜市中区社会福祉協議会／財団法人横浜開港150周年協会
■ 協力:かながわ県民活動サポートセンター　■ 協賛企業:大塚製薬（株）

バーンゴルフ 特別ご優待券

＊季刊「行こうよ。」(協力団体)資料

車いすで観光満喫

ガイド本出版

対応トイレなど掲載

車いすで楽しめる観光を紹介する季刊誌「行こうよ。」がこのほど出版された。障害の程度や体力に応じたコース設定、バリアフリーのトイレの場所など、車いすを使う人の目線で必要な情報を掲載した。

編集長も車いすを使う今石尚記さん(31)は「車いすの人は多いはずなのに外であまり見掛けない。どんどん外出してほしい」と話している。

創刊号に京都と岐阜県の飛騨・高山地方を特集。京都では金閣寺など観光地の情報のほか、車いすで入れて広いトイレのある料亭などグルメ情報も盛り込んだ。

今石さんは16歳のとき、脊髄(せきずい)を損傷し車いす生活になったが、友人らの誘いで旅行に出掛けるように。5年ほど前、車いすの人に「どうしてそんなに日焼けしてるの?」と聞かれ、体験を語ると「行ってみたい」と目を輝かせた。それを見て「なぜ車いす向け情報誌がないんだろう」と思ったのが、創刊のきっかけになったという。

A4判で税込み800円。ホームページ(http://www.ikoyo.jp)でおすすめスポット情報も募集中。問い合わせは発行元の彩煌堂(東京)、☎03・3208・3151。

090923 日経

「行こうよ。」web.

http://www.ikoyo.jp

車椅子ユーザーのための情報ガイド

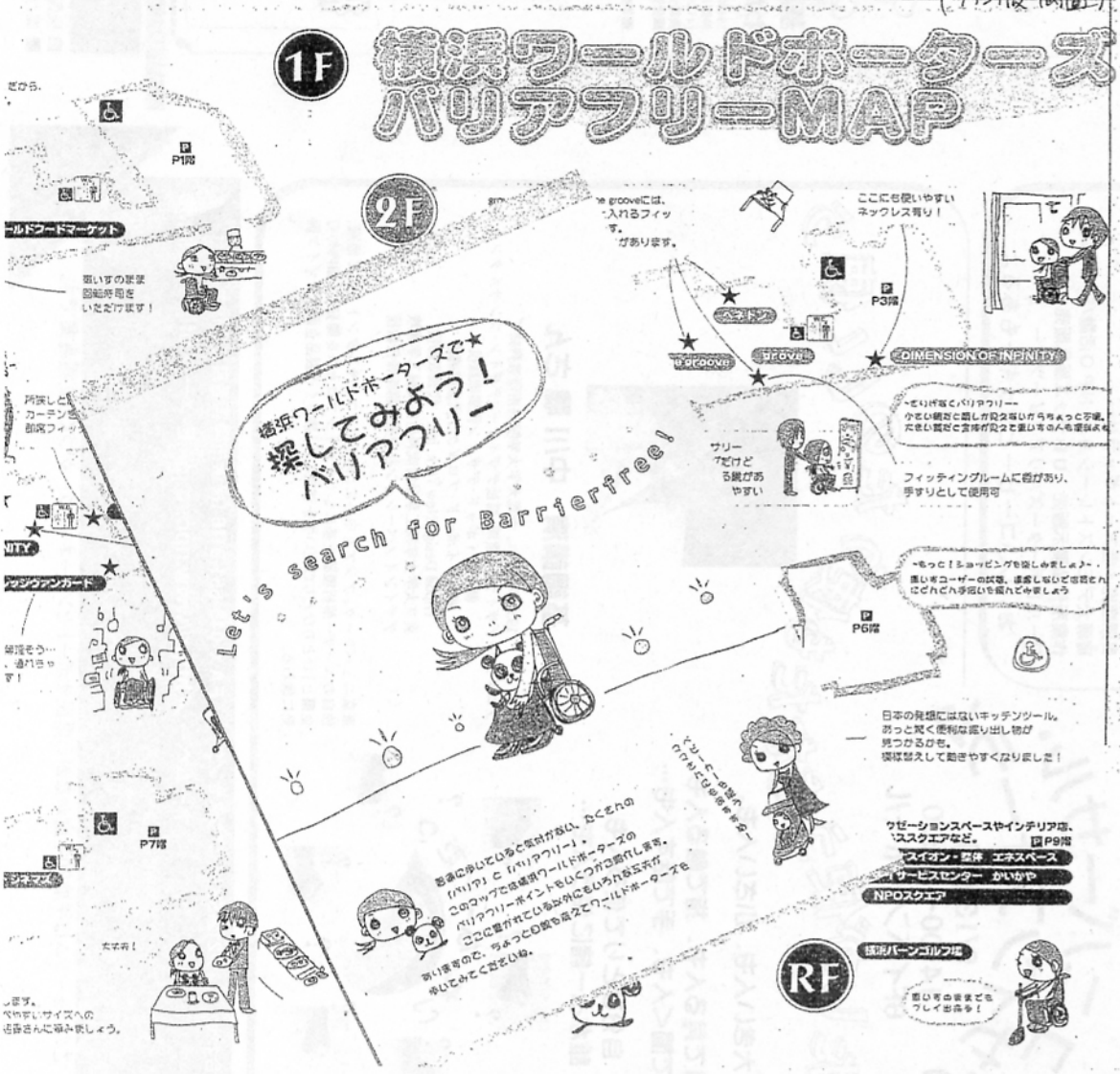
行こうよ。

発売：あずさ書店　定価800円(税込)

ISBN978-4-900354-96-8

編集長も車椅子ユーザーです。
もっと自由に外出を楽しもうよ。
もっと人生を楽しもうよ。
そしてもっと元気になってほしい。

発行：彩煌堂(さいこうどう)

新宿区大久保1-1-18 中村ビル2F
TEL:03-3208-3151
FAX:03-3208-3153

2008年 NPOスクエア連絡会作成のバリアフリーマップ(A3版 両面)